3 大井実のBOOKな話

福岡市内で書店『ブックスキューブリック』をいとなむ大井実さんの、本のある日常をつれづれに。
撮影／川上信也

春の光に幸せを感じる季節に、光に寄り添って生きる北欧の暮らしを思う。

日本では10年ほど前から北欧がブームになっています。美しいデザインや自然、厳しい季節に寄り添う人々の営み。いつかは旅したい場所のひとつです。

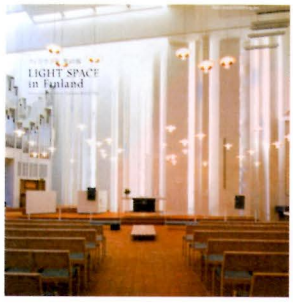
今月は、そんな北欧を深く知る一冊、『フィンランド光の旅 北欧建築探訪』という写真集をご紹介します。著者の小泉隆さんは九州産業大学で教鞭をとるかたわら、数年間にわたって北欧を訪れ、その素晴らしい建築様式を写真に収めました。私はある方の紹介で小泉さんと知り合い、今年3月には箱崎店で展示会を開催。多くの人に北欧建築の魅力を知っていただきました。

フィンランドの建築物の特長といえば、光の取り込み方。白夜と極夜（太陽が沈んだ状態）。極端な環境下で暮らす人々は、光に対する意識がとても高く、限られた太陽の光をいかに有効に室内に取り入れるかに創意工夫を重ね、独特の建築文化を築きました。1日の光の変化や、白をベースとした部屋の壁面から反射する光の表情が独特の〝揺らぎ〟を生み出し、室内をここちよい空気で満たす。昔ながらの古い教会、名だたる巨匠たちの名建築、最先端をゆく都会のビル…それぞれの建築に垣間見る光のマジックに、ページをめくるたびに魅了されます。

さらにこの本には、フィンランドの自然や行事なども紹介され、ガイドブック的な要素も持ち合わせています。5月のあたたかい光の中で、北欧の春に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

今回は室内の空間をテーマに、音楽は『ミュージック・フォー・エアポーツ』。イギリス人の音楽家、ブライアン・イーノによるアンビエント・ミュージック（環境音楽）の代表作です。このアルバムは空港のBGMとしてプロデュースされた1枚で、広くすっきりとした空間にぴったりの選曲。抑えたリズムの繰り返しが耳ざわりよく響き、心地よい〝揺らぎ〟を生み出してくれます。

『フィンランド光の旅
北欧建築探訪』
小泉隆／プチグラパブリッシング／2,940円



『MUSIC FOR AIRPORTS』
ブライアン・イーノ

※版権の都合により、今回はアルバムジャケットの掲載は控えています。